

ビジネス実務法務検定試験3級 - ビジネス実務法務の法体系

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q001 BL3-001

ビジネス実務法務の法体系 / 法体系 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
法は、憲法・法律・命令・条例など複数の法源から成り立つ。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：契約自由の原則はあるが、強行法規や公序良俗に反する合意は効力が否定されることがある。

要点：法体系

Q002 BL3-002

ビジネス実務法務の法体系 / 善意・悪意 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
法律上の善意は、道徳的に親切であることをいう。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：民法上の善意・悪意は心理状態を示す法律用語である。

要点：善意・悪意

Q003 BL3-015

ビジネス実務法務の法体系 / 強行規定 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
強行規定は、当事者の合意で排除できない法規範である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：労働法や消費者保護法などには、弱者保護のため強行規定が多い。

要点：強行規定

Q004 BL3-016

ビジネス実務法務の法体系 / 過失 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
過失とは、故意に相手を害する意思だけをいう。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：不法行為責任などで過失の有無が重要となる。

要点：過失

Q005 BL3-029

ビジネス実務法務の法体系 / 任意規定 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
任意規定は、当事者間に別段の合意がない場合に補充的に適用される。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：任意規定は契約で別の定めを置ける点が強行規定と異なる。

要点：任意規定

ビジネス実務法務検定試験3級 - ビジネス実務法務の法体系

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q006 BL3-030

ビジネス実務法務の法体系 / 法律行為 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
法律行為は、事実行為だけで成立し意思表示を必要としない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：契約・単独行為などは法律行為に含まれる。

要点：法律行為

Q007 BL3-043

ビジネス実務法務の法体系 / 公序良俗 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
公序良俗に反する法律行為は無効となる。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：民法90条の考え方で、社会的妥当性を著しく欠く契約は無効となる。

要点：公序良俗

Q008 BL3-057

ビジネス実務法務の法体系 / 信義誠実の原則 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
権利の行使や義務の履行は、信義に従い誠実に行う必要がある。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：信義則は契約解釈や履行過程で重要な一般原則である。

要点：信義誠実の原則

Q009 BL3-071

ビジネス実務法務の法体系 / 権利濫用 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
権利の行使でも、社会的に許されない濫用は認められない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：民法上、権利濫用は禁止される。

要点：権利濫用

Q010 BL3-085

ビジネス実務法務の法体系 / 時効 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
一定期間の経過により、権利の取得や消滅が問題となる制度が時効である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：時効の利益を受けるには、原則として援用が必要である。

要点：時効

ビジネス実務法務検定試験3級 - ビジネス実務法務の法体系

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q011 BL3-098

ビジネス実務法務の法体系 / 法体系 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
契約書は、常に法律より優先して適用される。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：契約自由の原則はあるが、強行法規や公序良俗に反する合意は効力が否定されることがある。

要点：法体系

Q012 BL3-099

ビジネス実務法務の法体系 / 善意・悪意 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
法律上の善意は、ある事実を知らないことをいう。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：民法上の善意・悪意は心理状態を示す法律用語である。

要点：善意・悪意

Q013 BL3-112

ビジネス実務法務の法体系 / 強行規定 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
強行規定は、当事者が合意すれば自由に排除できる。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：労働法や消費者保護法などには、弱者保護のため強行規定が多い。

要点：強行規定

Q014 BL3-113

ビジネス実務法務の法体系 / 過失 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
過失とは、注意義務を怠ったことをいう。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：不法行為責任などで過失の有無が重要となる。

要点：過失

Q015 BL3-126

ビジネス実務法務の法体系 / 任意規定 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
任意規定は、当事者の合意によって変更できない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：任意規定は契約で別の定めを置ける点が強行規定と異なる。

要点：任意規定

ビジネス実務法務検定試験3級 - ビジネス実務法務の法体系

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q016 BL3-127

ビジネス実務法務の法体系 / 法律行為 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
法律行為は、意思表示を要素として法律効果を発生させる行為である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：契約・単独行為などは法律行為に含まれる。
要点：法律行為

Q017 BL3-140

ビジネス実務法務の法体系 / 公序良俗 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
公序良俗に反する契約でも、書面化すれば常に有効である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：民法90条の考え方で、社会的妥当性を著しく欠く契約は無効となる。
要点：公序良俗

Q018 BL3-154

ビジネス実務法務の法体系 / 信義誠実の原則 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
契約書に書かれていない事情は、信義則上も一切考慮されない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：信義則は契約解釈や履行過程で重要な一般原則である。
要点：信義誠実の原則

Q019 BL3-168

ビジネス実務法務の法体系 / 権利濫用 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
権利者であれば、どのような目的でも権利行使は常に認められる。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：民法上、権利濫用は禁止される。
要点：権利濫用

Q020 BL3-171

ビジネス実務法務の法体系 / 公序良俗 / 形式：2択

次のうち、「公序良俗」について正しい説明はどちらか。

1. 公序良俗に反する法律行為は無効となる。
2. 代表取締役は、会社を代表する権限を一切持たない。

答え・解説

正答：公序良俗に反する法律行為は無効となる。
超簡単な解説：民法90条の考え方で、社会的妥当性を著しく欠く契約は無効となる。
要点：公序良俗

ビジネス実務法務検定試験3級 - ビジネス実務法務の法体系

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q021 BL3-185

ビジネス実務法務の法体系 / 信義誠実の原則 / 形式：2択

次のうち、「信義誠実の原則」について正しい説明はどちらか。

1. 権利の行使や義務の履行は、信義に従い誠実に行う必要がある。
2. 株式会社では、株式を発行することが法律上禁止されている。

答え・解説

正答：権利の行使や義務の履行は、信義に従い誠実に行う必要がある。
超簡単な解説：信義則は契約解釈や履行過程で重要な一般原則である。
要点：信義誠実の原則

Q022 BL3-199

ビジネス実務法務の法体系 / 権利濫用 / 形式：2択

次のうち、「権利濫用」について正しい説明はどちらか。

1. 権利の行使でも、社会的に許されない濫用は認められない。
2. 特定商取引法は、企業間の株主総会手続だけを定める。

答え・解説

正答：権利の行使でも、社会的に許されない濫用は認められない。
超簡単な解説：民法上、権利濫用は禁止される。
要点：権利濫用

Q023 BL3-213

ビジネス実務法務の法体系 / 時効 / 形式：2択

次のうち、「時効」について正しい説明はどちらか。

1. 一定期間の経過により、権利の取得や消滅が問題となる制度が時効である。
2. 不公正な取引方法は、独占禁止法上まったく問題にならない。

答え・解説

正答：一定期間の経過により、権利の取得や消滅が問題となる制度が時効である。
超簡単な解説：時効の利益を受けるには、原則として援用が必要である。
要点：時効

Q024 BL3-226

ビジネス実務法務の法体系 / 法体系 / 形式：2択

次のうち、「法体系」について正しい説明はどちらか。

1. 商標権は、発明そのものを保護する権利である。
2. 法は、憲法・法律・命令・条例など複数の法源から成り立つ。

答え・解説

正答：法は、憲法・法律・命令・条例など複数の法源から成り立つ。
超簡単な解説：契約自由の原則はあるが、強行法規や公序良俗に反する合意は効力が否定されることがある。
要点：法体系

Q025 BL3-227

ビジネス実務法務の法体系 / 善意・悪意 / 形式：2択

次のうち、「善意・悪意」について正しい説明はどちらか。

1. 法律上の善意は、ある事実を知らないことをいう。
2. 特定商取引法は、企業間の株主総会手続だけを定める。

答え・解説

正答：法律上の善意は、ある事実を知らないことをいう。
超簡単な解説：民法上の善意・悪意は心理状態を示す法律用語である。
要点：善意・悪意

ビジネス実務法務検定試験3級 - ビジネス実務法務の法体系

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q026 BL3-240

ビジネス実務法務の法体系 / 強行規定 / 形式：2択

次のうち、「強行規定」について正しい説明はどちらか。

1. 契約書は、常に法律より優先して適用される。
2. 強行規定は、当事者の合意で排除できない法規範である。

答え・解説

正答：強行規定は、当事者の合意で排除できない法規範である。

超簡単な解説：労働法や消費者保護法などには、弱者保護のため強行規定が多い。

要点：強行規定

Q027 BL3-241

ビジネス実務法務の法体系 / 過失 / 形式：2択

次のうち、「過失」について正しい説明はどちらか。

1. 過失とは、注意義務を怠ったことをいう。
2. 危険負担は、契約関係では一切問題とならない。

答え・解説

正答：過失とは、注意義務を怠ったことをいう。

超簡単な解説：不法行為責任などで過失の有無が重要となる。

要点：過失

Q028 BL3-254

ビジネス実務法務の法体系 / 任意規定 / 形式：2択

次のうち、「任意規定」について正しい説明はどちらか。

1. 消費者契約法は、事業者同士の国際売買だけを対象とする法律である。
2. 任意規定は、当事者間に別段の合意がない場合に補充的に適用される。

答え・解説

正答：任意規定は、当事者間に別段の合意がない場合に補充的に適用される。

超簡単な解説：任意規定は契約で別の定めを置ける点が強行規定と異なる。

要点：任意規定

Q029 BL3-255

ビジネス実務法務の法体系 / 法律行為 / 形式：2択

次のうち、「法律行為」について正しい説明はどちらか。

1. 法律行為は、意思表示を要素として法律効果を発生させる行為である。
2. 契約は、すべて行政庁の許可がなければ成立しない。

答え・解説

正答：法律行為は、意思表示を要素として法律効果を発生させる行為である。

超簡単な解説：契約・単独行為などは法律行為に含まれる。

要点：法律行為

Q030 BL3-268

ビジネス実務法務の法体系 / 公序良俗 / 形式：2択

次のうち、「公序良俗」について正しい説明はどちらか。

1. 保証人は、主たる債務者と無関係に常に無責任である。
2. 公序良俗に反する法律行為は無効となる。

答え・解説

正答：公序良俗に反する法律行為は無効となる。

超簡単な解説：民法90条の考え方で、社会的妥当性を著しく欠く契約は無効となる。

要点：公序良俗

ビジネス実務法務検定試験3級 - ビジネス実務法務の法体系

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q031 BL3-282

ビジネス実務法務の法体系 / 信義誠実の原則 / 形式：2択

次のうち、「信義誠実の原則」について正しい説明はどちらか。

1. 業務上の災害でも、労災保険は一切関係しない。
2. 権利の行使や義務の履行は、信義に従い誠実に行う必要がある。

答え・解説

正答：権利の行使や義務の履行は、信義に従い誠実に行う必要がある。
超簡単な解説：信義則は契約解釈や履行過程で重要な一般原則である。
要点：信義誠実の原則

Q032 BL3-296

ビジネス実務法務の法体系 / 権利濫用 / 形式：2択

次のうち、「権利濫用」について正しい説明はどちらか。

1. 賃貸借では、借主は賃料を支払う必要がない。
2. 権利の行使でも、社会的に許されない濫用は認められない。

答え・解説

正答：権利の行使でも、社会的に許されない濫用は認められない。
超簡単な解説：民法上、権利濫用は禁止される。
要点：権利濫用

Q033 BL3-310

ビジネス実務法務の法体系 / 時効 / 形式：2択

次のうち、「時効」について正しい説明はどちらか。

1. 取締役は、会社法上どの会社にも絶対に不要である。
2. 一定期間の経過により、権利の取得や消滅が問題となる制度が時効である。

答え・解説

正答：一定期間の経過により、権利の取得や消滅が問題となる制度が時効である。
超簡単な解説：時効の利益を受けるには、原則として援用が必要である。
要点：時効

Q034 BL3-323

ビジネス実務法務の法体系 / 法体系 / 形式：2択

次のうち、「法体系」について正しい説明はどちらか。

1. 法は、憲法・法律・命令・条例など複数の法源から成り立つ。
2. 請負では、仕事の完成は契約上まったく問題とならない。

答え・解説

正答：法は、憲法・法律・命令・条例など複数の法源から成り立つ。
超簡単な解説：契約自由の原則はあるが、強行法規や公序良俗に反する合意は効力が否定されることがある。
要点：法体系

Q035 BL3-324

ビジネス実務法務の法体系 / 善意・悪意 / 形式：2択

次のうち、「善意・悪意」について正しい説明はどちらか。

1. 株主総会は、株式会社では存在してはならない機関である。
2. 法律上の善意は、ある事実を知らないことをいう。

答え・解説

正答：法律上の善意は、ある事実を知らないことをいう。
超簡単な解説：民法上の善意・悪意は心理状態を示す法律用語である。
要点：善意・悪意

ビジネス実務法務検定試験3級 - ビジネス実務法務の法体系

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q036 BL3-336

ビジネス実務法務の法体系 / 権利濫用 / 形式：4択

次のうち、「権利濫用」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 強制執行は、口頭で請求しただけで必ず開始できる。
2. 質権では、債権者が目的物を一切占有しないことが必須である。
3. 権利の行使でも、社会的に許されない濫用は認められない。
4. 所有権は、他人の物を借りる権利にすぎない。

答え・解説

正答：権利の行使でも、社会的に許されない濫用は認められない。
超簡単な解説：民法上、権利濫用は禁止される。

要点：権利濫用

Q037 BL3-350

ビジネス実務法務の法体系 / 時効 / 形式：4択

次のうち、「時効」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 解除すると、契約違反の有無にかかわらず損害賠償請求は常に禁止される。
2. 公序良俗に反する契約でも、書面化すれば常に有効である。
3. 連帯保証人は、催告の抗弁権と検索の抗弁権を常に行使できる。
4. 一定期間の経過により、権利の取得や消滅が問題となる制度が時効である。

答え・解説

正答：一定期間の経過により、権利の取得や消滅が問題となる制度が時効である。

超簡単な解説：時効の利益を受けるには、原則として援用が必要である。

要点：時効

Q038 BL3-363

ビジネス実務法務の法体系 / 法体系 / 形式：4択

次のうち、「法体系」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 請負では、仕事の完成は契約上まったく問題とならない。
2. 株主は、会社債務について常に無限責任を負う。
3. 法律行為は、事実行為だけで成立し意思表示を必要としない。
4. 法は、憲法・法律・命令・条例など複数の法源から成り立つ。

答え・解説

正答：法は、憲法・法律・命令・条例など複数の法源から成り立つ。

超簡単な解説：契約自由の原則はあるが、強行法規や公序良俗に反する合意は効力が否定されることがある。

要点：法体系

Q039 BL3-364

ビジネス実務法務の法体系 / 善意・悪意 / 形式：4択

次のうち、「善意・悪意」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 無権代理行為は、本人の意思に関係なく必ず有効となる。
2. 意思能力を欠いていても契約書に署名すれば常に有効である。
3. 法律上の善意は、ある事実を知らないことをいう。
4. 使用者は、労働条件を一切明示しなくてもよい。

答え・解説

正答：法律上の善意は、ある事実を知らないことをいう。

超簡単な解説：民法上の善意・悪意は心理状態を示す法律用語である。

要点：善意・悪意

Q040 BL3-377

ビジネス実務法務の法体系 / 強行規定 / 形式：4択

次のうち、「強行規定」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 委任は、必ず物の所有権を移転する契約である。
2. 売買契約では、買主に代金支払義務は発生しない。
3. 強行規定は、当事者の合意で排除できない法規範である。
4. ADRは、裁判所の判決だけを意味する。

答え・解説

正答：強行規定は、当事者の合意で排除できない法規範である。

超簡単な解説：労働法や消費者保護法などには、弱者保護のため強行規定が多い。

要点：強行規定

ビジネス実務法務検定試験3級 - ビジネス実務法務の法体系

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q041 BL3-378

ビジネス実務法務の法体系 / 過失 / 形式：4択

次のうち、「過失」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 制限行為能力者がした契約は、常に最初から絶対に有効である。
2. 質権では、債権者が目的物を一切占有しないことが必須である。
3. 復代理人は、本人とは一切法律関係を持たない。
4. 過失とは、注意義務を怠ったことをいう。

答え・解説

正答：過失とは、注意義務を怠ったことをいう。

超簡単な解説：不法行為責任などで過失の有無が重要となる。

要点：過失

Q042 BL3-391

ビジネス実務法務の法体系 / 任意規定 / 形式：4択

次のうち、「任意規定」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 労働契約では、使用者に賃金支払義務はない。
2. 任意規定は、当事者間に別段の合意がない場合に補充的に適用される。
3. 錯誤があっても、契約は常に絶対に取り消せない。
4. 営業秘密は、社内で公開されていれば秘密管理の有無にかかわらず保護される。

答え・解説

正答：任意規定は、当事者間に別段の合意がない場合に補充的に適用される。

超簡単な解説：任意規定は契約で別の定めを置ける点が強行規定と異なる。

要点：任意規定

Q043 BL3-392

ビジネス実務法務の法体系 / 法律行為 / 形式：4択

次のうち、「法律行為」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 定型約款は、どのような内容でも相手方を必ず拘束する。
2. 株主総会は、株式会社では存在してはならない機関である。
3. 未成年者がした契約は、どのような場合も取り消すことができない。
4. 法律行為は、意思表示を要素として法律効果を発生させる行為である。

答え・解説

正答：法律行為は、意思表示を要素として法律効果を発生させる行為である。

超簡単な解説：契約・単独行為などは法律行為に含まれる。

要点：法律行為

Q044 BL3-405

ビジネス実務法務の法体系 / 公序良俗 / 形式：4択

次のうち、「公序良俗」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 意匠権は、企業秘密だけを保護する制度である。
2. 制限行為能力者がした契約は、常に最初から絶対に有効である。
3. 公序良俗に反する法律行為は無効となる。
4. 未成年者がした契約は、どのような場合も取り消すことができない。

答え・解説

正答：公序良俗に反する法律行為は無効となる。

超簡単な解説：民法90条の考え方で、社会的妥当性を著しく欠く契約は無効となる。

要点：公序良俗

Q045 BL3-419

ビジネス実務法務の法体系 / 信義誠実の原則 / 形式：4択

次のうち、「信義誠実の原則」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 請負では、仕事の完成は契約上まったく問題とならない。
2. ADRは、裁判所の判決だけを意味する。
3. 権利の行使や義務の履行は、信義に従い誠実に行う必要がある。
4. 商標権は、発明そのものを保護する権利である。

答え・解説

正答：権利の行使や義務の履行は、信義に従い誠実に行う必要がある。

超簡単な解説：信義則は契約解釈や履行過程で重要な一般原則である。

要点：信義誠実の原則

ビジネス実務法務検定試験3級 - ビジネス実務法務の法体系

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q046 BL3-433

ビジネス実務法務の法体系 / 権利濫用 / 形式：4択

次のうち、「権利濫用」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 一度成立した契約は、当事者全員が合意しても解除できない。
2. 内容証明郵便を送れば、裁判をしなくても必ず強制執行できる。
3. 取締役は、会社法上どの会社にも絶対に不要である。
4. 権利の行使でも、社会的に許されない濫用は認められない。

答え・解説

正答：権利の行使でも、社会的に許されない濫用は認められない。
超簡単な解説：民法上、権利濫用は禁止される。

要点：権利濫用

Q047 BL3-447

ビジネス実務法務の法体系 / 時効 / 形式：4択

次のうち、「時効」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 賃貸借では、借主は賃料を支払う必要がない。
2. 定款は、会社設立後には一切意味を持たない。
3. ライセンス契約では、権利者の利用許諾は一切問題とならない。
4. 一定期間の経過により、権利の取得や消滅が問題となる制度が時効である。

答え・解説

正答：一定期間の経過により、権利の取得や消滅が問題となる制度が時効である。

超簡単な解説：時効の利益を受けるには、原則として援用が必要である。

要点：時効

Q048 BL3-460

ビジネス実務法務の法体系 / 法体系 / 形式：4択

次のうち、「法体系」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 強行規定は、当事者が合意すれば自由に排除できる。
2. 特許権は、単なる商号だけを保護する権利である。
3. 法は、憲法・法律・命令・条例など複数の法源から成り立つ。
4. 占有は、登記がなければ絶対に成立しない。

答え・解説

正答：法は、憲法・法律・命令・条例など複数の法源から成り立つ。

超簡単な解説：契約自由の原則はあるが、強行法規や公序良俗に反する合意は効力が否定されることがある。

要点：法体系

Q049 BL3-461

ビジネス実務法務の法体系 / 善意・悪意 / 形式：4択

次のうち、「善意・悪意」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 代表取締役は、会社を代表する権限を一切持たない。
2. 実用新案権は、文学作品を保護する権利である。
3. 法律上の善意は、ある事実を知らないことをいう。
4. 株式会社では、株式を発行することが法律上禁止されている。

答え・解説

正答：法律上の善意は、ある事実を知らないことをいう。

超簡単な解説：民法上の善意・悪意は心理状態を示す法律用語である。

要点：善意・悪意

Q050 BL3-474

ビジネス実務法務の法体系 / 強行規定 / 形式：4択

次のうち、「強行規定」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 申込みは、相手方に届かなくても必ず契約を成立させる。
2. 債務を履行しなくても、契約責任は一切発生しない。
3. 株式会社では、どのような濫用があっても法人格否認はあり得ない。
4. 強行規定は、当事者の合意で排除できない法規範である。

答え・解説

正答：強行規定は、当事者の合意で排除できない法規範である。

超簡単な解説：労働法や消費者保護法などには、弱者保護のため強行規定が多い。

要点：強行規定

ビジネス実務法務検定試験3級 - ビジネス実務法務の法体系

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q051 BL3-475

ビジネス実務法務の法体系 / 過失 / 形式：4択

次のうち、「過失」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 商号は、個人名以外には法律上認められない。
2. 契約は、すべて行政庁の許可がなければ成立しない。
3. 占有は、登記がなければ絶対に成立しない。
4. 過失とは、注意義務を怠ったことをいう。

答え・解説

正答：過失とは、注意義務を怠ったことをいう。

超簡単な解説：不法行為責任などで過失の有無が重要となる。

要点：過失

Q052 BL3-488

ビジネス実務法務の法体系 / 任意規定 / 形式：4択

次のうち、「任意規定」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 代理人が契約すると、効果は常に代理人本人にだけ帰属する。
2. 任意規定は、当事者間に別段の合意がない場合に補充的に適用される。
3. 少額訴訟は、すべての複雑な国際紛争に無制限で使える。
4. 所有権は、他人の物を借りる権利にすぎない。

答え・解説

正答：任意規定は、当事者間に別段の合意がない場合に補充的に適用される。

超簡単な解説：任意規定は契約で別の定めを置ける点が強行規定と異なる。

要点：任意規定

Q053 BL3-489

ビジネス実務法務の法体系 / 法律行為 / 形式：4択

次のうち、「法律行為」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 弁済しても、債務は絶対に消滅しない。
2. 所有権は、他人の物を借りる権利にすぎない。
3. 法律行為は、意思表示を要素として法律効果を発生させる行為である。
4. 商号は、個人名以外には法律上認められない。

答え・解説

正答：法律行為は、意思表示を要素として法律効果を発生させる行為である。

超簡単な解説：契約・単独行為などは法律行為に含まれる。

要点：法律行為